市新総合計画の主要施策⑥ 備中高梁駅のバリアフリー化と周辺整備 ～その3～

1月号から連載している、備中高梁駅のバリアフリー化と周辺整備について、今月号では、駅前のロータリー広場整備と備中高梁駅の橋上化についてお知らせします。

■問い合わせ　総合政策課総合政策係（☎㉑0286）

駅前（西側）のロータリー広場整備

駅前の交通状況は、先月号でもお知らせしたとおり、朝夕の通勤・通学の時間帯に送迎の車や路線バスで渋滞し、駅利用者や歩行者にとって大変危険な状況となっています。

こうした状況を解消するため、市は平成26年度末までに、駅前にロータリー広場（車の回転場と駐車場）の整備を計画しています。

また、駅前に十分なスペースを確保することが歩行者などの安全につながることから、ロータリー広場整備に伴い、現在の駅舎を北側（東西連絡道寄り）に移転する必要があります。

備中高梁駅の橋上化

備中高梁駅のバリアフリー化(※1)については、東西連絡道を利用し駅ホームへエレベーターを設置した場合の人の動線は、最大で4回のエレベーター乗降が必要となることを先々月号でお知らせしました。

駅前ロータリー広場整備に伴い、現在の駅舎を移転する場合、駅舎を橋上化して、東西連絡道から直接、改札できるようにすれば、最大でも2回のエレベーター乗降で済み、人の動線も大幅に短縮されます。

このような手法を用いれば、子どもからお年寄り、障害のある人まで、全ての人が安心して利用でき、ユニバーサルデザイン(※2)に対応した駅となります。

新庁舎等建設検討協議会・加藤会長から提言書について説明を受ける近藤市長

協議会からの提言

市民団体や公募で選ばれた委員で組織する「新庁舎等建設検討協議会」は、新庁舎建設や備中高梁駅のバリアフリー化などについて、昨年4月から協議を続けてきました。

協議会では、「駅周辺を一体的に整備し中心市街地の活性化を図っていくことが、将来の高梁にとって魅力のあることではないか」といった意見が多く上がり、「そのためには、駅のバリアフリー化と併せて、駅東西からの利便性を向上させるために橋上改札や、駅前・駅東側のロータリー広場の早期整備が必要なのでは」「新庁舎や図書館などを駅前に整備することで、にぎわいが創出され、高梁の玄関口としてもシンボルになるのでは」といった活発な意見が交換されました。

これらの議論をまとめ、1月27日に、協議会から市長に対し、『駅のバリアフリー整備と、駅の橋上化事業は一体的に早急に進め、未来の高梁市に夢を持てるような事業としてほしい』との提言がありました。

今後の整備方針

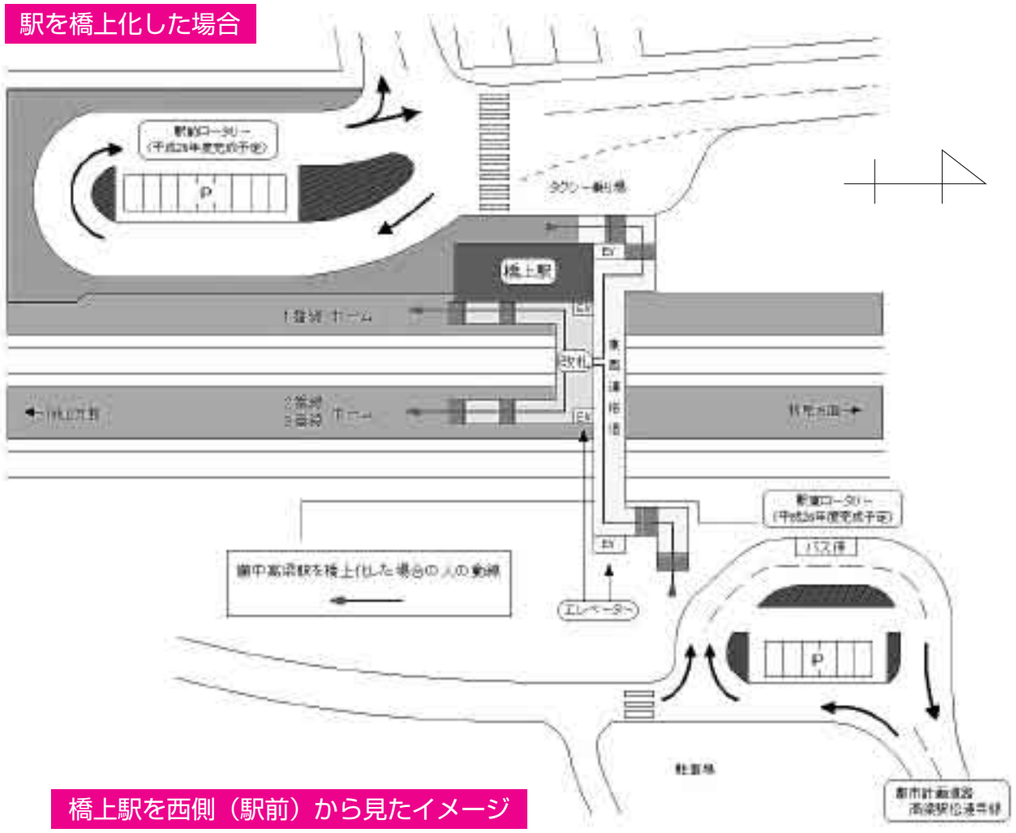
市は、JR西日本と備中高梁駅のバリアフリー化について協議を始めましたが、この連載でお伝えしましたように、駅の橋上化、駅前ロータリー広場整備についても併せて、JR西日本と協議を進めています。

今後は、今年9月ごろを目途にJR西日本と基本協定を締結する予定です。なお、本事業は本市の財政負担が少ない、国のまちづくり交付金事業を活用し、平成26年度完成を目指しています。

(※1)バリアフリー化…建物の段差を取り除くなど、障害のある人や高齢者などが利用する上での障壁が取り除かれた状態

(※2)ユニバーサルデザイン…文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・デザイン

駅を橋上化した場合



橋上駅を西側（駅前）から見たイメージ